

申請時の研究題目 : 「国産ハラール肉生産に見られるムスリムとの関わり合い」

1.はじめに

今回助成をいただいた基金によって、英語・アラビア語文献の翻訳、福岡での調査、関連書籍の購入などを行うことができた。文献は本研究の軸となる視点を得るために、調査は現地の人たちの現状を知るために大変有益なものであった。今後活かしていきたい。

2. 研究内容

2.1 研究題目(9月時点)

「近年の国産ハラール牛肉生産関係者の取り組みとその動機—イスラームにおける屠畜と労働の観点から—」

2.2 研究概要

日本においてハラール牛肉生産は、ムスリム移民たちによって 90 年代後半から行われてきた。近年、それらの牛肉生産とは多くの点で異なる形のハラール牛肉生産が見られている。本研究では、近年見られる形のハラール牛肉生産の現状と課題を明らかにする。その上で、それに取り組む関係者が何を動機に本事業に取り組んでいるのかをイスラームの屠畜と労働の視点から明らかにし、それが現状とどう関わっているのかを考察する。

2.3 研究目的

- ① 2010 年頃から見られる形のハラール牛肉生産の現状と課題を明らかにすること。
- ② 関係者たちが本事業に取り組んでいる動機を、イスラームの屠畜と労働の視点から可能な限り詳細に明らかにすること。
- ③ 上記①と②の関わりを考察すること。

2.4 仮説

- ①近年のハラール牛肉生産事業の関係者たちは、様々な困難を抱えながらも努力して本事業を成り立たせている。
- ②それらの努力を行う動機には、ムスリムであるか否かに関わらず、利他的動機や来世的な利益に通じる動機が見られる。

2.5 先行研究

①90年代のハラール牛肉生産関係

- ・樋口、丹野らの90年代の日本におけるハラール食品産業についての論文が数点存在。
移民による食文化の越境という視点。

②近年のハラール牛肉生産関係・各種雑誌。『畜産コンサルタント』、『ジェトロセンサー』など。

2.6 研究手法

- (1) 文献調査・クルアーン、ハディース、関連文献における屠畜や商売に対する報いに関連する箇所を整理する。

最新のハラール牛肉生産に関する雑誌（web記事を含む）の整理。

- (2) フィールドワーク・人吉市（ゼンカイミート所在地）に8月初旬から9月半ばまで滞在し、ゼンカイミートを中心に関係者へのインタビュー調査を行う¹。

インタビュー先：ゼンカイミート経営者、従業員、萩原前社長、人吉市役所の方々、畜産農家の方、天草権現ファーム、七種サイド氏等

2.7 2月の九州予備調査の結果

- (1) 天草権現ファーム影山社長

天草の地鶏「天草大王」をハラールに処理。

ゼンカイミートに依頼して天草黒牛を5頭ハラールに屠畜し販売した経験。

天草黒牛をハラール化した理由

- 天草の食べ物が安心安全であるということを世界、日本の人に認めてもらうことを考えて行われる事業の一環。将来的には牛の飼育も含めて行いたい。

ハラール肉生産に取り組む動機

→メイドイン天草を世界的に知られるブランドにしたいということ。天草にいい場所、いいもの、いい人があるので、ハラールでそれを繋いでいきたい。

- (2) ゼンカイミート前社長萩原氏

ゼンカイミートにハラール屠畜を導入した人物。

¹ 実際は筆者その他の事情が変わり、福岡のモスクでの2日間のインタビュー調査に留まった。

現在は人吉市産業振興専門委員を務める。

ハラール牛肉生産を始めた理由

→9年前にMHCのアクマル氏に出会い、日本のムスリムがおいしいお肉を食べられないという状況を聞いて。

ハラール牛肉生産に取り組む動機

→ハラール食を中心にした人吉市の活性化。

人吉市に育ててもらった恩返しの気持ち。

3.おわりに

今回、森泰吉郎記念研究振興基金をいただいたことで、有意義に研究を進めることができた。誠にありがとうございました。筆者の事情により休学することになり、研究が途中で終わってしまったことは大変残念で申し訳なく思うが、今後も森泰吉郎記念研究振興基金によって得られた知見を活用し、社会生活を送っていきたい。